令和元年度

宮崎市総合教育会議

# 会　　議　　録

# 令和元年度　宮崎市総合教育会議　会議録

１　日　時　　令和元年８月９日（金）１５：３０～１７：００

２　場　所　　宮崎市役所本庁舎４階　特別会議室

３　出席者　　戸敷市長

【教育委員会】
西田教育長、今門代表教育委員、畠山教育委員、江草教育委員、柳田教育委員

【オブザーバー】
宮里地域コミュニティ課長、富田地域まちづくり推進室長
山本文化・市民活動課長

【事務局】
河野教育局長
下郡企画財政部長
（企画総務課）川辺課長、河野室長、竹下係長、堀指導主事
鬼束主任主事、黒田主任主事
（学校施設課）野口課長
（学校教育課）押川課長、小川補佐
（教育情報研修センター）和田所長
（生涯学習課）黒岩課長、中村補佐
（保健給食課）中野課長
（文化財課）富永課長
（企画政策課）野尻参事、大木補佐、金丸主査

４　傍聴者　　１名

５　意見交換
宮崎市における今後の教育の課題について
（１）「性の多様性を理解し、支援するための教育について」
（２）「宮崎市ならではのコミュニティ・スクールについて」

| | |
|---|---|
| 河野室長 | ただいまから、令和元年度宮崎市総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに、本会議の主宰者でございます戸敷市長からご挨拶をいただきたいと思います。 |
| 戸敷市長 | この教育会議も毎年行っておりますが、様々な業務をしながら、子どもたちの将来、それから、まちづくりについての話もさせていただいております。特に、昨年から子どもたちのことを考えて、教育もまちづくりもしっかりやろうということで、ふれあいトークも中学校単位で実施するようにしました。３年間で２５校区全てで実施しようと考えております。昨夜も木花中学校区で実施をしました。教育長にも一緒に参加をしていただいていたのですが、将来の宮崎を担う人材として、子どもたちがどのように考えているかということを聞かなければ、一般行政、または教育行政で即これをやりますと言うことは難しいと考えています。特に、一般行政としてどういうことを提供するのかということを考えると、将来、子どもたちが帰ってきたいという思いをもってもらうという動きをしております。そういう意味では未来に繋がることを、この会議の中でもしっかりと話をしていただいて指導していただけると、ありがたいと思っております。宮崎市内でも、学校の生徒数が増えているところや閉校したところもございます。様々な課題を抱えていると思いますが、そういうものをしっかりと認識をしながら、政策に生かすという状況も考えなければならないと思っていますので忌憚のないご意見をいただければ、ありがたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。 |
| 西田教育長 | 平成２７年度から、この会議が始まりまして、本日もこのような機会をいただきまして、本当にありがとうございます。また、今月の２８日からいよいよ市内の全中学校にALTが配置され、子どもたちも新たな学びができるのではないかと我々も期待しているところであり、市長のおかげであると思っております。本当にありがとうございます。この総合教育会議は、現場が抱える課題やあるべき姿を市長とともに意見を交わしながら、思いを汲み合う良い機会だと捉えております。教育委員会では、今門代表教育委員を始め、４名の皆様に熱心に取り組んでいただいておりまして、第二次宮崎市教育ビジョンの実現に向け一丸となって、取り組んでいるところであります。<br>先程も話があったように、今日の社会の変化は急激でありまして、子どもたちを取り巻く教育状況は大きく変化しております。また、人生百年時代を迎えまして、私達自身が日々学び続け、自分を変革していく力も求められております。このようなことを踏まえて、宮崎の子どもたちの今後の１０年２０年後をしっかりと見据えた教育の在り方を今回考えていくことも必要でありますし、また、家庭や地域との連携協働という体制もしっかりとつくっていきたいと我々としても感じているところであります。今 |

| | |
|---|---|
| | 後のより良い教育の創造のためにも、本日は、市長からのご助言をいただきながら、活発な意見交換ができればと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。 |
| 河野室長 | ありがとうございました。それでは、本日の日程について説明させていただきます。本日は、お手元の会次第に沿いまして、１７時までの１時間３０分、市長、教育長、教育委員の６名によりまして、意見交換を行う予定にしております。なお、本日は、地域コミュニティ課長、地域まちづくり推進室長、文化・市民活動課長がオブザーバーとして同席しております。それでは、会次第３「意見交換」に入ります。ここからの進行につきましては、戸敷市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。 |
| 戸敷市長 | それでは、私の方で進行させていただきます。まず、私の方から、提案させていただきたいと思います。今後の宮崎の教育の在り方という課題ですが、最初の課題としては、「性の多様性ということを理解し、支援するための教育について」考えていきたいと思っております。<br>私も最初ＬＧＢＴということが、どういうことか全く分かりませんでした。その中で、女性でありながら、男性に性転換をしたという方の講演をお聞きし、社会の中で受け入れてもらえず、非常に悩んでいらっしゃるということでした。お話をお聞きし、性的少数者の方が差別されないような状況を私の方で早くつくっていかないといけないという思いをもちました。性的少数者についての正しい理解という観点から、パンフレットも作らせていただき、このことによって、性的少数者の在り方というのを、男女共同参画社会の中で、しっかりと受け入れるまちにしなくてはいけない。性的少数者であることが差別に繋がるような状況ではなくて、多様性を受け入れるようなまちにならないといけないというように考えました。本市のアンケートでは約６％の方が性的少数者でした。また、学校現場でも、トイレにもいけない人がいるということですから、しっかりと対応しないといけないと考えています。そういったことから、「第五次宮崎市総合計画」については、性的少数者支援に関する項目などをあげました。そして、今年の６月ですが、「パートナーシップ宣誓制度」をスタートさせました。当初は、そういう宣誓制度を設けることで、差別的になったり、申し出ない人が多いのではないかということを心配しましたが、現在６組宣誓をされております。市営住宅への入居やパートナーが入院などをした際に病状をお互いに見聞きすることができるなど安心した生活ができるということで、非常にプラスになってきたと思っております。私どもは、こういうことを考えますと、やはり小さい時から、認識を高める努力をしていかないといけないのではないかということで、学校教育の中でもそういうことを考えていただければ、ありがたいと思っております。今回、そういうことに関しての意見交換をさせていただき、開かれた社会づくりと |

| | |
|---|---|
| | いうのを努力していくべきではないかと思っております。それでは、まず、本市の取組について担当課から説明をいたします。 |
| 山本文化・市民活動課長 | 本市の取組状況について、簡単に説明いたします。皆様に本日お配りした配付資料１に沿って、ご説明申し上げます。本市の取組状況でございますが、市長のご説明にもありましたように、計画への位置付けでございます。<br>（1）「第五次宮崎市総合計画」への位置付けでございます。重点目標として「一人一人が尊重され、生き生きと暮らせる共生社会の確立」を掲げ、主要施策の一つといたしまして、「個人の性的指向・性自認を理由とする差別や偏見の解消を図るため、広報・啓発活動を推進します。」ということを具体的に位置付けさせていただいております。<br>さらに、「第２次宮崎市男女共同参画基本計画」を改訂しておりますが、「多様な性を尊重する社会づくりの推進」を今回追加いたしました。重点施策としましては、「性の多様性に関する正しい知識定着のための啓発教育の充実」に現在取り組んでおります。<br>参考情報になりますが、平成２９年の男女共同参画基本計画策定の際に本市独自に市民意識調査を２，０００名に郵送で実施し、回収が７４０名、このうち６．１％の、人数にすると、４５名の方が性的少数者ということで、お答えされております。さらに全国調査、直近の民間調査によりますと、ＬＧＢＴ層は、８．９％と１割に迫る結果でございます。<br>文化・市民活動課の取組について説明させていただきます。平成２９年度からの取組を書かせていただいております。先程、市長が講演を聴いて感銘を受けたと話をされた人権・男女共同参画フォーラムの実施をしております。それから、英語で「同盟」・「支援する」という意味の言葉の「ＡＬＬＹ」という立場を推進していくということを平成２９年度に明確にしております。それから、本市の男女共同参画センター「パレット」では、講座や研修会に取り組んでおります。<br>平成３０年度の欄になりますが、この年から当事者による意見交換会を行っております。全７回にわたって、ニーズの洗い出しを行っております。意見交換会では、当事者の皆さんをはじめ「ＡＬＬＹ」の皆さんの意見をいただきながら、当事者の生きづらさ、困り感などを伝える場として、積極的に活用させていただきました。出された意見を踏まえ、その下になりますが、庁内の１９課から成るワーキングチームでどのような政策を進めればいいのかスピーディーに取り組もうということで、会議を開催しております。その下の性別欄の削除についてですが、平成３０年度の取組としまして、１７５／５６５の文書について、性別欄を削除しております。それから、レインボーという冊子と連携した学習指導案の作成を学校教育課と取り組んだところでございます。その下に当事者団体（協働）という記 |

| | |
|---|---|
| | 載がありますが、これは、ＬＧＢＴ交流会のレインボービュー宮崎協会参加の協働の取組でございます。フォーラムの開催、それから、旧４町につきましても、地域における学習会を実施したところです。高岡地域で開催した際には、国富町、綾町からもご参加をいただいたところです。最後に、本年度の取組の「パートナーシップ宣誓制度」についてです。この資料作成時まで、５組でございましたが、先程、市長に報告いただきましたとおり、８月３日に６組目の宣誓をいただいたところでございます。さらに、市内中学校での講演は予定も含め記載しております。本年度から３年間で３０校、これは私立も含めて１年間に２１０校程度を計画させていただいております。次に、市政の出前講座でございます。すでに４校から申込みが来ております。それから、相談員向けの研修会を本年度開催を１２月に予定しております。予定ですが、本年は各学校で相談を受けることが多い養護教諭を対象として、研修会を予定しております。さらに当事者団体では県庁でライトアップが８月１日から８月７日に開催され、これに合わせまして、レインボーウィーク宮崎という取組を当事者団体が行ってくれました。こちらは、市民活動センターにおきまして、映画上映、上映が終わった後に、パレードといった県でも初めての取組も行われました。最後になりますが、パレットの段に記載があります。講座等は、引き続き継続して取り組んでまいりますが、性的少数者に関する専門相談窓口の設置ということで１０月の開始予定としております。月一回の電話相談、メールでの随時受付、そういったことで、相談窓口の設置を予定しております。以上でございます。 |
| 戸敷市長 | ありがとうございました。まずは、教育長からご意見を伺いたいと思います。 |
| 西田教育長 | 本市にパートナーシップ制度ができたということが、当事者の幸せに繋がるというようなことと、性の多様性を市民に広く知らせるということで、非常に有意義なことだと思っています。そういう中で、教育委員会としての取組を説明をさせていただたいきと思います。<br>「３教育委員会・学校での取組」でございます。ここにありますようにまず、研修の充実ということで、教育長・教育委員・職員向けの研修会ということで、２６市町村で集まりまして、レインボービュー宮崎の山田代表から、ＬＧＢＴについて考えるということで講演をしていただいております。困り感や支援の在り方等を非常に考えさせられるものでした。<br>また、平成３０年の８月には、宝塚大学の日高教授から、他県のアンケートをもとに様々な話がありました。その中でやはり自己否定をする性的少数者が多く、それがいじめやからかいの対象になるということで、我々としてはやはりそういった子どもたちのＳＯＳに気づいて、寄り添った導が必要だなとつくづく感じたところでした。 |

| | |
|---|---|
| 柳田教育委員 | 昔に比べ、理解は深まってきた一方で、いじめは起こっているというアンバランスな状態だと思います。だからこそ、しっかりとした理解、教育が必要だと改めて思います。先程の教育長のお話に出たように、学校でも具体的なことを進めている訳ですが、当事者だからこうなのだろうというふうに決めつけて、「理解」というところに行き着いてないのではないかと思います。きちんと痛みを理解するとか、根本的な部分である人権教育やいろいろな障がい者であったり、不登校とかひきこもりになっている人などが、社会で認められていますが、そういういろいろなつらい立場の人達に接して、理解していくことが重要になってきています。そこで、ぜひ学校の先生に「わからない」という前提を大切にしてほしいと思います。彼らの痛みや苦しみというものを、わからないから終わりでなくて、わからないから、聞いていってほしいです。つい、「男のくせに」とか「女なんだから」と無意識に言ってしまうのは、昔から刻み込まれているものとして、自分の言葉がどう相手に受け止められるか、相手のことを簡単にわかったつもりにならずにどんなふうに困っているのか、つらいのか、一つひとつ、明らかにしていくような営みが必要であると思います。そのためには、やはり時間の確保が必要です。なかなかお忙しい学校の先生方で、働き方改革の中ではありますが、必要なことはしっかりと時間を確保して、続けていってほしいと思いますし、今だけのことで終わらずに、ずっと継続していってもらいたいと思います。そのような土台を作っていけたらいいなと思います。いろいろな資料を見ながら、そのようなことを改めて考えました。 |
| 戸敷市長 | ありがとうございました。確かに本人の苦しみはわからないものです。そのようなことを考えると先程、アンケートでも性的少数者の方が６％ということで、そういう時代になったということですね。カミングアウトしていない方がほとんどですが、現実には「パートナーシップ宣誓制度」を利用される方がいらっしゃるので、認められ、受け入れてもらいたいということが、現実にどんどん出てきています。しっかりと宣誓制度、条例化していくことが大切で、全国に広がり、早いうちに対応できるようなことを考え、もちろん家庭が一番ですが、教育でも先行していくことが大事なことだと思っています。畠山教育委員どうでしょうか。 |
| 畠山教育委員 | 中々言葉にしにくい、表現しにくい、デリケートな部分の話題ですけど、やはり生きていくうえでは、避けてはならない大事なことではないかと思います。先ほど教育長があいさつの中でもおっしゃっていましたが、中学校のＡＬＴによる英語の教育も私達の時代とはがらりと変わり、世界に目を向けた時代がもう来ており、私たちが受けた時代の教育とは違う教育を子どもたちは受けています。また、教育の世界では、また、どこの国でも、どんな人ともコミュニケーションが図れる人材を育てることが大切だと |

| | |
|---|---|
| | 考えています。<br>　私は、いろいろな方とおつきあいする中で、こういう少数派の方の知り合いが沢山います。決して、違和感とか、不思議なこととか一切感じません。また、頭でわかっていることと、心で感じることはやはり違うではないかと思います。頭で理解しようとするのではなく、やはり、共感する気持ちや尊重しあうことが大切なのではないかと思います。性の多様性だけではなく、様々な生き方がある中で、共感し合う心、尊重し合う心を養い、子どもたちがよりよい人生を送るお手伝いを教育現場ができるのではないかと思います。そして、少数派の方の中には、素晴らしい才能を持っていらっしゃる方が沢山います。このデリケートな問題は、地域性とか年齢層だとか、女らしく生きていかなければならないとか男は堂々としていなければならないとか、弱音を吐いてはいけないとか、そういう言葉で育てられた年代の考え方や風土が根強いかもしれませんが、それを打破できるような力が教育にはあると思います。 |
| 戸敷市長 | 　ありがとうございました。言葉での自己表現など海外は進んでいますが、日本だけが孤立している今の状態では、子どもたちの個性自体も制約してしまう形になってしまいます。是非とも、前向きに理解をしていく中で、どんどん発信力を持つような形にしていくべきと思います。 |
| 今門代表教育委員 | 　小学校の教員をやってきて、約５００人の子どもを受け持ったということになります。その内の６％が当事者かもしれないということになると、私が出会った子どもたちにも３０人ぐらいはいたということになります。ただ、全くそういうことに気づきもしなかったし、それらしい子どもが見当たらないということについて、私自身の力量が無かったということで申し訳なく感じているところです。ただ、仲間はずれやいじめについては、絶対してはいけないこととして、厳しく指導してきたつもりです。例えば、赤が好きな子が、青や黄を好きな子も、自分が赤が好きなくらいその色が好きなんだという違う考え方を尊重し合うことが大切なんだということを説いてきました。みんなそれぞれの意見や考え方があり、それで良いということを言ってきました。また、困っている人を助ける人になること。人を助けるときは、男も女もなく、お互いに手を取り合って助けてあげること。そして、人が嫌がることをしない、言わない、人が喜ぶことをする。言ってあげるというクラスの決まりをつくっていました。小学校では、人権を大事にしていこうという基盤づくりが大事なことだと思います。また、自分の事に置き換えると、自分の子どもがもし当事者だった場合、自分が死んだ後、一人でぽつんと生きていくよりも誰かパートナーと支え合って生きて、最後にありがとうといえる人がそばにいて欲しいと思います。そういった意味で、パートナーシップ宣誓制度は、素晴らしい制度であり、あたたかく見守ってくれる人が増えると良いと思います。 |

| | |
|---|---|
| 戸敷市長 | ありがとうございました。人権教育というものを上手くやらないと社会は混乱します。小学校の時から、そういう思いを育てることをしっかりやっていれば、世に出るときに子どもたちが動揺せず出ていくことができ、様々なことを打破していくと思います。最終的にはやはり人権教育と思います。江草教育委員はいかがでしょうか。 |
| 江草教育委員 | 今回、パートナーシップ宣誓制度については、全国に先駆けての取組であることを知って驚きました。また、高校に行っている子どもから聞いた話ですが、同じ学校ではありませんが、一人学校を辞めた子がおり、その子が性的少数者だったということでした。誰にも相談できずに悩んでいたということでした。世の中が少し、オープンになってきたような感じはありますが、やはり、言えない苦しい気持ちをもっている子もいて、もし、周りの人達に受け入れてもらっていれば、その子ももう少し楽しい学生生活を送れたのではないだろうかと同じ世代の子どもを持つ親として考えたところでした。また、私は、児童館に勤めています。児童館で、女の子がおまえとかいった言葉を使っているのを聞くと、「女の子がそんな言葉を使っちゃだめよ」と言いたいのをぐっとこらえて、「そういう言葉は女の子だろうが男の子だろうが使っちゃいけない。ちゃんとお名前で呼ぶようにしなさい」と言うようにしています。子どもたちに対して、いじめや差別はいけないということを、しっかり言い聞かせるようにしているところです。一人を仲間はずれにしているような状況の時は、相手の気持ちになったらどうかということを、一人ひとり尋ねて、仲良くしてもらうように今、一生懸命に努めています。 |
| 戸敷市長 | 現実に学校を辞めるというのもあるのですね。カミングアウトできないのは、そこに、いつでも受け入れてもらえるという体制がないからだと思います。最終的には全体で受け入れる体制をつくるようにならないといけません。宮崎市のパートナーシップ宣誓制度というのは、効果とまでは言わないまでも、こういうことがあるのだというアピールにはなったと思います。実際、そういうふうに手を挙げている人もいらっしゃるということは、堂々と社会に出ていくという状況になるので、本人たちにしてみれば、市役所が宣誓を受け入れてくれたというだけで、変わってくる部分もあるかと思っています。また、トイレをフリーにしても、性的少数者と気づかれそうだから、反対に行けないということもあるかと思います。そんなことが普通のことになるような世の中になることが必要かと思います。施設を整えなければならない学校ももどかしさがあり、予算を伴う問題もなかなか難しいものですがいかがでしょうか。 |
| 西田教育長 | 大変難しい問題で、施設を整えればできるのかというと、反対に偏見の目で見られるのではないかという見方もあり、当事者以外の子どもたちの理解度とか需要度とかを、まず、自分達が知って、子どもたちも同じよう |

| | |
|---|---|
| | に感じられるようになるかということをしっかりとやっていかないといけません。いじめの問題も同じような状況があり、はやし立てるとか、見て見ぬふりをして無関心がいけないということを我々がどれだけ感性として、身に付けさせていけるかが重要であるということを日々感じています。 |
| 戸敷市長 | だいぶ、それぞれの学校で受け入れるというところも出てきました。一挙に理解するということが難しいものなので、時間はかかると思うので、継続性もって取り組むべきことだと思います。他に何か、方策はないでしょうか。 |
| 今門代表教育委員 | 先日の勉強会で、当事者の子どもが先生に打ち明けて、誰にも言わないでと言ったのに、先生が親に言ってしまったという話も聞きました。そして、同性の人を好きになり打ち明けたら、偏見の目で見られてしまって、自ら命を絶ってしまったという話も聞きました。そのような悲しくてつらい過去の出来事に学ぶことも大事で、どうしたらよかったのかを皆で考えて、どういう言葉をかけて、どう対応すればよかったかを研修することも大切だと思いました。先生の対応の仕方によっては、心に深い傷を負わせてしまうので、先生の対応というのはとても重要です。信念と感性を磨き、一人ひとりの先生達がしっかりと研修等で身に付けることが必要だと思います。 |
| 戸敷市長 | このことについて、他にありますか。 |
| 柳田教育委員 | 先生方も一人で抱え込むと大変だろうと思います。当事者であるということを子どもから聞いて、一人で処理するのはとても大変です。先生達同士で、学校の中でこのことにどう向き合っていくべきかというような話し合いができるような学校づくりをするべきだと思います。どんなに難しい問題が起きても、先生達同士で連携を取り、子どもたちとの向き合い方を相談しあえる学校づくりをしなくてはならないと思います。 |
| 戸敷市長 | 性的少数者に対する理解を深めることは、社会で様々な悩みを抱える人達への理解にもつながります。行政としては、プロジェクトチームを立ち上げて支援しているが、柳田教育委員もおっしゃったように、学校としては、学校全体で取り組む必要性があります。今後、あらゆる機会で、行政と教育委員会が連携し、親にも子どもたちにも理解してもらうことを積極的にやっていく必要があると感じています。この件に関しては、今日の皆さんの意見を生かして、しっかりとまちづくりに生かしていきたいと思います。いつも言っていますが、人づくりはまちづくりです。この機会に認識を深め、更に拡充していきたいと考えているのでよろしくお願いいたします。<br>それでは、続いて、コミュニティ・スクールについてです。昨日のふれあいトークでもコミュニティ・スクールについて、高齢者を活用して欲し |

| | |
|---|---|
| | い、どんどん子どもたちの教育のバックアップをしていきたいという意見をいただきました。このようなことを活用して是非とも「宮崎ならでは」のコミュニティ・スクールを考えていただきたいと思います。<br>　いろいろなことを地域ぐるみでされている地域もあります。しかし、それがコミュニティ・スクールであるか疑問であるところもあります。地域協議会、地域まちづくり推進委員会も積極的にやっている地域もあります。生目台で、地域の高齢者の方が、学習塾のようなものをやっていて、そこに来ていた子どもたちが今度は大学生となり、教える側になるという連鎖的に繋がっていくという状況もできてきています。それをしっかりとやることによって開かれた地域づくり、コミュニティ・スクールなど大きな流れや様々な動きが出てくるのではないか、地域のいろいろな人と顔を合わせることで安心感を生むといったようなことも大事ではないかと考えます。<br>　コミュニティ・スクールは開かれた地域づくりにつながるのではないかと思います。また、郷土愛をもち、最終的には地域に帰ってくる、担う人材を育てるということがコミュニティ・スクールでできるのではないかと考え、積極果敢に取り組んでいきたいと思っています。 |
| 西田教育長 | 　配付資料２をご覧ください。コミュニティ・スクールの目的ですが、学校運営の改善が一番の目的になります。その背景として、ここに書かれているように現在、学校や子どもたちが抱える問題が多様化・複雑化し学校だけでは解決できないと言われており、課題解決のためのツールとして、コミュニティ・スクールを導入しようと考えています。次に、学校運営協議会の機能についてです。学校運営協議会の機能は三つあり、一つは、学校運営の基本方針の承認。もう一つは、地域や保護者の方が委員つまり当事者となり、学校運営について協議する場であること。もう一つは教職員の任用について教育委員会に意見を申し述べることができるということです。具体的に学校運営協議会で議論されることとしては、子どもたちの登下校の安全をどうするのか、いじめ・不登校の問題をどう解決するか、貧困、防災対策など、学校運営協議会で熟議して解決に向けた方向の検討を行うことになります。現在の本市の進捗状況についてご説明いたしますと、「コミュニティ・スクール推進体制構築事業」ということで、７月２９日に１０名の委員で構成する「コミュニティ・スクール推進委員会」を設置し、検討を進めることになりました。来年度はモデル校の設置などを予定しております。<br>　次に、「宮崎市ならではの」コミュニティ・スクールとはどういうことかということについてご説明いたします。<br>　一つ目は学校関係者評価委員会から学校運営協議会への充実・発展的な移行です。学校運営協議会へ充実・発展的に移行することで、地域の方に |

| | |
|---|---|
| | より当事者意識をもって学校運営に携わっていただきたいと考えています。二つ目は、宮崎市特有の長所である「地域協議会・地域まちづくり推進委員会」を生かしていくことです。実際に、推進委員会の中の委員からもそういう意見をいただき、上手くタイアップしながら、やっていきたいと考えています。三つ目は地域貢献の視点をもった双方向性のある体制づくりです。学校が地域貢献をする、地域から学校支援等をいただく、これが上手く流れることによって、良い循環というのができます。宮崎市のまちづくりに貢献できるということで、これを具体化したのが、双方向性のある体制づくりです。現在、市長とふれあいトークに参加させていただいておりますが、その中でも、この双方向性についての意見がまさに出ていると感じております。子どもたちが地域の「ひと・もの・こと」を知ることで、地域に関心・愛着をもち、地域や社会に貢献する人材や地域の担い手となることにつながります。このことから、持続可能なまちづくりに教育行政としても貢献できるのではないかと考えているところです。先程、市長が言われたのは、寺子屋事業等について資料に記載しておりますが、実際すでにできているところもあるのではないだろうかという見通しを持っているのが現状です。以上で説明を終わります。 |
| 戸敷市長 | ありがとうございました。人口減少社会で、核家族化が進んでおり、家庭内でも躾もままならない状況で、社会的なルールなどを理解していくのに、地域の人との触れ合いというのが大事なことです。このコミュニティ・スクールというやり方で、拡張し、成果を出し、子どもたちが最終的に、宮崎に目を向けてくれるようになれば、ありがたいと考えています。そのことから、このコミュニティ・スクールを是非とも実現し、宮崎の子どもたちと地域の人達との連携ができて、成果が出ればと思っています。 |
| 江草教育委員 | 子どもが中学校に通っているので、コミュニティ・スクールがこれからどうなっていくのか楽しみに思っています。地域の人達に、見守りとかですごく助けてもらっており、実際、自分もＰＴＡとして、防犯パトロールをやっている中、学校と地域の連携を密にしていかないといけないと思います。特に、先程言われた生目台のような取組は、家計的に塾に行けない子達にとっては、とても良い取組だと思うので、他の地域でも是非行って欲しいと思います。このように、学校と地域が結びついて、連携できるシステムが充実していくと、子どもたちの教育が素晴らしいものとなると思うので、ぜひ進めていってもらいたいです。 |
| 戸敷市長 | ありがとうございました。共働きやひとり親など親が夕方帰ってきて、子どもだけで過ごす時間が多いという家庭も多くなってきました。大事な流れは、皆で作り上げていくことが必要かもしれません。そのような機能を醸成するという意味では、コミュニティ・スクールが良いと思います。畠山教育委員いかがでしょう。 |

| | |
|---|---|
| 畠山教育委員 | 少子高齢化やそれから女性が仕事を持ち、働き、なかなか家庭が厳しいという現状はどこでもあると思います。私も仕事をしながら、子育てをしていたので、人様が助けてくれるありがたさは本当に感じています。今度は、自分が助ける番というふうにも思います。これがまさしく「宮崎市ならでは」の双方向の絆づくりであり、それが安心安全なまちづくりにつながっていくことになると思います。もう自分の家庭だけで子どもを育てる時代ではなく、皆で子育てをするという時代になります。子どもに関わるということは、子どもから学ぶことがたくさんありますし、元気ももらえます。ですから、高齢者の方々も、役に立つというという喜びを感じてもらうことで、生き甲斐づくりにもつながり、双方向のコミュニティが宮崎のまちを元気にする大きなきっかけになるのではないのかと思っているところです。子育てが終わったら、今度は介護が始まったり、いろいろな状況がありますが、学校が基本になっていき、そこに地域が繋がっていく、理想的なまちづくりを目指していただきたいし、私もその一員として役に立つということをやっていきたいと感じております。 |
| 戸敷市長 | 双方向でやることができるという状況ができれば、親も安心して出て行けるし、地域の人達にとっても生き甲斐づくりにもなります。昨日も、高齢者の方に私達をどんどん活用してくれと言われました。まだまだ元気だし、知性もあるし、能力もある、私達が、子どもたちを育てていくという雰囲気だったので、コミュニティ・スクールの話をしたら、ある程度、理解をしていただいて、少し前進したと感じました。双方向というのが、本当に、大事だなと思います。 |
| 今門代表教育委員 | 教育長から、「宮崎市ならでは」のコミュニティ・スクールの説明を聞いて、素晴らしい構想だと思います。進めてほしいという思いです。地域で子どもを育てるということについてですが、先日、全英オープン優勝した渋野日向子選手のお母さんが、インタビューで「どういう育て方をしたのですか」という記者の質問に対し、「私が育てたのではなくて、地域の方々が育てたのです。」とおっしゃっていたのが非常に心に残りました。マナーや人として生きていくための大切な事は、皆地域の方が教えて下さったということで、考えてみれば、私達も小さい頃は、地域の方によく声をかけていただきました。いろいろなところで助けられたり、教えられたりしながら育ってきたところです。子どもと地域のつながりは、大切で、学校もそのことは十分わかっていて、そういった取組も前からやっていますし、総合的な学習が取り入れられ、地域学習、学社連携や学社融合などの指定研究校もあり、地域の人に来ていただいて、いろいろなことを教えていただきました。宮崎市は、コミュニティ・スクールの素地が十分にできているので、すんなりと受け入れられていくのではないかと思います。ただ、地域の方が来るだけでは、コミュニティ・スクールとは言えないの |

| | |
|---|---|
| | で、学校運営協議会をしっかりと機能させることが大切です。宮崎市の校長先生の中には、コミュニティ・スクールについてとても詳しい先生もいます。そういう先生方を中心にモデル校の設定をしっかりとしていただき、指定された学校が良い見本になってくれると他の宮崎市内の学校に広がっていくのではないかと思います。 |
| 戸敷市長 | 原点に帰るということも大切なことです。今、他人には関わり合わないという人達も多いですが、地域の方々は、自分達が育てられたから、子どもたちをなんとかバックアップをしたいという気持ちがあります。また、家庭についてもバックアップしたいが、手が出せないというところに、今回のコミュニティ・スクールというのは、非常に効果が出てくるのではないかと思います。今後の課題として双方向ということで、地域、学校、家庭の連携がなかなかできていないという状況もあるので、行動していくシステム作りというのが今回の課題としては流れができるのではないかと思います。 |
| 柳田教育委員 | 今回、コミュニティ・スクールについてずいぶん勉強させていただきました。ただ、なかなか具体的にピンとこなかったところです。学校が困っていることを地域の力を借りて、対応していくということですが、学校からの下請けのように請け負うだけでは上手くいきません。また、現役世代は、忙しくて積極的に学校行事に参加する方が少ないという担い手の問題があります。ただ、自分がスクールカウンセラーをしていた頃、学校が荒れていた時期があり、パトロールをお父さんたちでしてくださり、学校が落ち着いてきたということがありました。このようにテーマがはっきりして、自分達もできるということがあると、時間の都合をつけて、関わる動きができるのかと考えると、ふれあいトークなどでアピールすることがすごく有効であるのではないかと思います。 |
| 西田教育長 | 柳田教育委員のおっしゃるとおりだと思います。ただ、難しいのは指導者などの高齢化が進んでおり、まちづくりとしての巻き込み感があるのかということです。以前から、地域で何か行事をすると、子どもが集まる。子どもたちが集まれば、保護者達が集まる、またお年寄りも集まるということでした。今後、そういう関係づくりというのをもっと丁寧にやっていかないといけないと考えています。一部に負担がかかることのないよう配慮をどうしていくか、また、学校区と地域自治区の違いの問題など様々な問題を一挙に解決できるわけではないので、できるところからやっていくという形で進めていくしかないと考えております。 |
| 戸敷市長 | 地域まちづくり推進委員会はありますが、メンバーが固定化されていたりするということも聞きます。敬老会の逆慰問や小学生が餅をついて成人に振る舞ったり、櫶の方は年賀状を一軒一軒届けたりするなどと、子どもたちが動いて、それを地域がバックアップするということがあっても良い |

| | |
|---|---|
| | と思います。地域自治区では、積極的にバックアップしたいが、家庭によってはそのことを拒否するところもあります。家庭より子どもを大事にしながら、地域がルールを教えていくというのも、あるのかなと思っています。昔は、子どもながらに地域との関わり合い方を身に付けていましたが、今の子どもたちは、そんなことはできません。今回のコミュニティ・スクールがそういった意味でも、一つの大きな流れになればいいと考えております。 |
| 畠山教育委員 | 私のやっている活動が、地域の方や高齢の皆さん、子どもたち全般に、喜んでいただける音楽ですので、地域で残されている伝統的な曲を演奏して、皆さんに踊っていただいたりするなど、そういう芸能活動で絆が深まっております。地域の皆さんが受け継いでいる地域の宝というのがありますから、子どもたちが誇りに思っていることを語り合いながら、触れ合っている姿というのは、私も傍で見て、感動する場面が沢山あります。本当にありがたい役割をいただいていると思っているところです。そして、子どもさんがいない方でも、子どもが巣立って学校との関わりがなくなった方達にも、もしくはまた学び直しということでも、学校に足を運べるということは、大変嬉しいことで、皆さんに伝えることができたらと思っています。 |
| 戸敷市長 | コミュニティ・スクールなどで、学校にどんどん入ってきてもらっては逆に困るという部分もあるだろうと思いますが、そのあたりの整理についてはどうでしょうか。 |
| 西田教育長 | 地域の意見が強くなりすぎて、学校が困るというような点も出てくる可能性も考えられますが、校長先生の力量を高めながら一緒にやっていく方法もあると思っています。また、地域の意見をしっかりと受け止められる学校づくりが大切であり、制度上でいえば、合議制だということをしっかりと打ち出していかないと、上手く進まないと思います。最終的な実施主体は学校であることを、規則上にしっかりとうたっていかないと、混乱をきたす地域も出てくると思いますので、その整理を今年度中にやっていきたいと思っております。 |
| 戸敷市長 | 確かに、ルールを設けてしっかりとやらないと、逆に混乱をするような状況では、困ります。上手く地域と学校とのネットワークをつくる必要があります。モデル校が設置するということなので、モデル校から実践していくようにしてほしいですし、発信力をもって、コミュニティ・スクールからまちづくり、子どもの育成につなげていくというやり方をしないといけないと思っています。コミュニティ・スクール推進体制を構築する事業としてスタートしているので、ぜひ実践していただきたいと思います。 |
| 今門代表教育委員 | 夏休みに入ったのに、子どもたちの姿を見ることがありません。暑いからか、パソコンゲームをしているのか、豊かな体験や経験を今の子どもた |

| | |
|---|---|
| | ちはしていないような気がします。地域活動を通して、様々な経験することは、心を豊かにし、とても大切なことであります。地域とのふれあいを大事にして、宮崎の宝である子どもが良い方向に伸びるような豊かな体験や経験をさせてあげたいと思います。 |
| 戸敷市長 | 今日は、二つのテーマについて話していただきました。これからも一般行政と教育行政が連携し、地域とまちづくりを進めることで人づくりにつながるということになります。昨日もふれあいトークの際に、木花で中学生と必ず宮崎に帰ってきてね、と最後に握手をしました。コミュニティ・スクールの中で、子どもや地域のつながりが上手くいくことが、まちづくりにつながるので、がんばって子どもたちとのふれあいをやっていきたいと考えています。皆さんも、今日いただいた貴重な意見を実践できるようにご指導賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 |